

年 組 名前 :

問1

「^{せいぶつ}生物^{きせつ}季節^{くわんそく}観測」は何^{なん}のために^{おこな}行って
いるのですか。

.....
.....
.....

問2

気象^{きしょう}庁^{ちやう}が来^{らい}年^{ねん}から「^{せいぶつ}生物^{きせつ}季節^{くわんそく}観測」を
^{しゆくしょう}縮^{げんいん}小^{なん}する原因は何^{なん}ですか。

.....
.....
.....

問3

観^{かん}測^{そく}を「^{はいし}廃止^{するもの}するもの」と「^{げんじやう}現状^{のまま}のまま
^{のこ}残^{すもの}すもの」を、それぞれ2つずつ^か書^{いて}いて
ください。

[廃止するもの]

- ①
- ②

[残すもの]

- ①
- ②

気象庁は10日、花の開花やウグイスの初鳴きなどから季節の移ろいをとらえる「生物季節観測」を2021年から6種9現象に縮小すると発表した。動物23種は全て廃止し、植物は桜の開花・満開などの一部を残す。
気象庁によると、残すのは①アジサイの開花②イチョウの黄葉・落葉③ウメの開花④カエデの紅葉

セミの初鳴き 観測やめます 気象庁 来年から

・落葉⑤桜の開花・満開⑥ススキの開花。廃止するのはアブラゼミの初鳴きや、テッポウユリの開花など。
気象台や測候所周辺の生態環境が変わり、標本木の確保や対象動物を見つけるのが難しくなったのが原因。地球温暖化など気候の長期変化や年間を通じた季節変化を全国的に把握するのに適した種類
・現象を選び、観測を継続する。

(2020年11月11日付 山梨日日新聞 22面)